

科目名称：	乳児保育実習Ⅱ	
担当者名：	米川 祥子・山本 真里子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>社会の変化により、子育てにおいて「乳児保育」の需要が高まり、それに伴い、乳児保育の充実が求められている。本授業では、前期の「乳児保育演習Ⅰ」「乳児保育実習Ⅰ」「乳児保育研究Ⅰ」に続いて、乳児保育を実践する保育現場にて観察と体験を行い、乳児保育について理論の裏づけや実践力を高める。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●0・1・2歳時の保育実践を理解する。 ●子ども・保護者・保育者それぞれの立場で成長を理解しようとする姿勢を身につける。 ●乳児保育担当者を目指す者としての自覚をもつ。 		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)			60	40	100
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（米川）臨床心理士・公認心理師（幼児相談）	《経験年数1》 18年
	《内容2》（山本）保育士	《経験年数2》 43年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解度	授業内容を理解し、乳児保育に意欲を抱いている。	乳児保育者として望ましい対応を理解している。	乳児保育者としての対応の重要性を理解している。	乳児保育者としての重要性が何かを理解できない。
授業態度	授業の内容に興味関心を抱き、意欲的に取り組んでいる。	授業の内容に興味関心を抱き、課題をこなしている。	授業での課題をこなしている。	授業に興味関心を抱けない。
自身の考察	授業をふり返り、自分に引き付けて捉え、自分の考えを導き出している。	授業をふり返り、自分に引き付けて捉えることができている。	授業をふり返り、自分の思いを書くことができている。	授業をふり返り、内容の報告に留まっている。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 演習「乳児とやりとり遊び」(グループワーク)	乳児とやりとり遊びの事前資料を読んでおく	10分
第2回 乳児のあそび実習	乳児のあそびについての事前資料を読んでおく	10分
第3回 乳児のあそび実習	乳児のあそびについてレポートを作成しておく	30分
第4回 乳児保育体験(保育現場体験インターンシップ)	教科書の「0・1・2歳児の発達」の部分を読んでおく	10分
第5回 乳児保育体験(保育現場体験インターンシップ)	教科書の「0・1・2歳児の発達」の部分をもとめておく	10分
第6回 乳児保育体験(保育現場体験インターンシップ)	体験の記録(メモ)を書いておく	10分
第7回 乳児保育体験(保育現場体験インターンシップ)	体験の記録(メモ)をもとめておく	10分
第8回 乳児保育体験記録まとめ	前期の現場体験2回と今回の体験の記録を見直しておく	10分
第9回 乳児保育観察記録(保育現場体験インターンシップ)	乳児保育における自分なりの課題を選出しておく	10分
第10回 乳児保育観察記録(保育現場体験インターンシップ)	体験中のエピソード記録の下書きを仕上げしておく	10分
第11回 乳児保育観察記録まとめ	体験中のエピソード記録を清書し仕上げしておく	10分
第12回 観察記録ケース検討(保育現場体験インターンシップ)	観察記録をもとめておく。質問事項の確認。	30分
第13回 観察記録ケース検討(保育現場体験インターンシップ)	保育者とのカンファレンスの内容をまとめる	30分
第14回 ケース検討シェアリング(グループワーク)	自分のエピソード記録を考察して完成させる	30分
第15回 ケース検討シェアリング(グループワーク)	ケース検討シェアリングについてレポートを作成しておく	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。

授業への積極的関与40% 提出物60%

課題に対するフィードバック

各課題に対して、その都度コメントシートでフィードバックする。
最終課題は、希望者には返却する。

教科書・参考書

<教科書> 「乳児の発達と保育」 エイデル研究所
「はじめて学ぶ乳児保育」 同文書院
「赤ちゃんの発達とアタッチメント」 ひとなる書房